



ZENFAUREN

全附連 | 全国国立大学附属学校連盟・一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会

子どもたちと
この国の
未来のために

全附P連PTA研修会 第16回全国大会

一人ひとりが みんなたいせつ 一作品に託す願い

講演が始まると、くすのきしげのり氏の柔らかな語り口と温かな笑顔に、会場全体がずっと引き込まれました。絵本作家として、そして長年教育現場に携わってきた経験から、くすのき氏は子どもたちへのまなざしと物語に込めた願いを、子どもを交えながら語ってくださいました。「絵本は言葉を読むだけでなく、絵を『読む』ものです」と、くすのき氏は語りました。「いいな『じぶん』」の朗読では、会場から自然と笑顔がこぼれました。「誰も代われない自分」をそのまま受け入れることの尊さを、優しい言葉と絵の力で伝えてくださったのです。「おこでませんように」では、短冊に込められた子どもたちの切実な願いが紹介され、聴く人の目に涙が浮かびました。笑いと感動が交錯する時間の中で、絵本が心をつなぐ力を、私たちは肌で感じました。印象的だったのは「バリアは子どもではなく、大人の心の中にある」という言葉です。子どもを変えようとする前に、自分の見方を変えてみる。教育や子育てにおいて、まず「信じて見る」ことの大切さを改めて教えられました。また、「何になりたいか」だけでなく「どんな人になりたいか」を問うことが、子どもたちの未来を豊かにすると語られた言葉にも深くうなずきました。

講演の締めくくりに、くすのき氏は「笑顔は、人と人をつなぐいちばん身近な希望です」と語られました。その言葉に、私たちPTAの活動もまた、笑顔と優しさの連鎖を生み出す力を持っているのだと気づかされました。子どもたちのそばにいる大人として、たいせつを支えるその思いを、これからの歩みに生かしていきたいと思っています。



基調講演Ⅰ
児童文学作家
くすのきしげのり氏

子どもたちとAIの時代を生きる 一変化を楽しみ、未来を育てる力

美馬氏は、「主体性とは積極性ではなく、世界に働きかける力です」と結ばれました。子どもたちの未来を見据え、私たち大人もまた、変化の担い手として今できることを考え行動することの大切さを改めて感じる講演でした。

また、公園の安全を題材にAIカメラ導入を検討するワークをとおして、便利さの裏にある倫理やプライバシー、そして「誰のための技術なのか」を問い直す視点をいただきました。AI時代の教育には、技術を使いこなすだけでなく、使う「意味」を考える力が求められることを実感しました。

講演では、美馬氏が米国の公立小学校で体験したPTA活動を紹介され、担任が2か月先の学習テーマを家庭と共有し、保護者や祖父母が日常的に教室に関わる姿に触れられました。その経験から、学校任せではなく、家庭・地域・学校が共に考え行動する協働の大切さを学びました。

AIやデジタル技術が私たちの日常に急速に広がる中で、「子どもたちとAIの時代を生きる」一変化を楽しみ、未来を育てる力」と題して、美馬のゆり氏がご講演くださいました。学習科学の研究者として、AIを単なる効率化の道具としてではなく、「人がどう学び、どう生きるか」を考えるきっかけにすべきだと語られました。



基調講演Ⅱ
学習環境デザイナー
／学習科学者
公立はこだて未来大学
システム情報科学部教授
美馬のゆり氏

文科科学大臣政務官の金城泰邦氏からご挨拶を賜りました。いじめ防止対策活動の推進、教員への感謝の気持ちを表現する作文・絵作文コンクールの開催、スマートフォンやSNSの適切な利用に関する講演の開催など、昨今の子どもや学校をめぐる諸課題に対し、積極的な取り組み、各国立大学附属学校の優れた取組みや授業事例等を、広く周知展開され、国立大学附属学校がその使命・役割を果たしていく上での支援をいただくなど、大変なご努力と創意工夫のもと活動を進められていることに對しまして感謝のお言葉を賜りました。

文科科学省では、個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指し、質の高い教師人材の確保や学校におけるICT環境の整備、支援スタッフの配置・充実、働き方改革の推進などに取組みを報告いただきました。国立大学附属学校においては、令和の日本型学校教育を先駆的に実践していただくことを期待しております。文科科学省と国立大学附属学校の機能をさらに強化し、学校教育の質の向上を通じてすべての子どもたちへのより良い教育の実現のためには、学校のみならず、家庭・地域との連携・協働が必要であります。皆様方におかれましては、学校教育の良き理解者として、今後ともご理解とお力添えをいただきたいとお言葉を頂戴いたしました。

来賓挨拶
文科科学大臣
政務官
金城泰邦氏

文科科学大臣政務官の金城泰邦氏からご挨拶を賜りました。いじめ防止対策活動の推進、教員への感謝の気持ちを表現する作文・絵作文コンクールの開催、スマートフォンやSNSの適切な利用に関する講演の開催など、昨今の子どもや学校をめぐる諸課題に対し、積極的な取り組み、各国立大学附属学校の優れた取組みや授業事例等を、広く周知展開され、国立大学附属学校がその使命・役割を果たしていく上での支援をいただくなど、大変なご努力と創意工夫のもと活動を進められていることに對しまして感謝のお言葉を賜りました。



来賓挨拶
文科科学大臣
政務官
金城泰邦氏

LINE UP

—1面～4面—

全国大会特集

—5面—

全附連盟特集

—6面—

省庁出前教室

—7面～9面—

絵画コンクール

—10面—

各種活動紹介

—12面—

全附P連特集

附属学校園の使命

全国国立大学附属学校連盟

理事長 関口 睦

(埼玉大学教育学部附属中学校 校長)



9月26日と27日に全附P連の全国大会が実施され、大変多くの方々にご参加いただき、「子どもたちの未来のために」語り合う、充実した学びの場となりました。心より、感謝申し上げます。

大会を通じて感じたことは、附属学校園は多くの方々に支えられ、助けていただいているということです。支えていただいている方々のお気持ちやご支援・ご協力にお応えするためにも、我々附属学校園の教育をより充実した、魅力あるものに高めていかなければならないと強く感じました。

国では次期学習指導要領改訂に向けた論点整理が示され、多様な子どもたちの「深い学び」を離かなものにし、生涯にわたって主体的に学び、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りできる、民主的で持続可能な社会の創り手をみんな育てていくことが打ち出されています。このような教育の方向性は、附属学校園こそ先頭となつて示すことができるものだと思います。そして、その優れた取組を各方面に伝えていくことこそが、附属学校園の大切な使命であると考えております。今後皆様とともに附属学校園の取組を進めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

豊かな未来へ、共に踏み出す一歩

一般社団法人全国国立大学附属学校
PTA連合会

会長 宮本 昌尚

(香川大学教育学部附属坂出幼小中)



私たちのテーマ「子どもたちとこの国の未来のために～認め合い、共に時代を切り拓こう～」は、まさに現代社会が必要としている視点です。

附属学校での教育を通じて、子どもたちは知的好奇心を伸ばすとともに、多様な背景を持つ仲間との協働を経験します。この経験こそが、互いの違いを「個性」として尊重し、強みとして活かす「共生」の力を育みます。

保護者の皆様には、子どもたちが失敗を恐れず、自信を持って挑戦できる家庭環境を整えていただくことを願っています。変化の激しい時代だからこそ、私たち大人が丸となり、子どもたちが自ら考え、行動し、そして社会を豊かにする担い手となるよう支えていきましょう。

子どもたちの輝かしい未来と、この国の希望を、共に創造できることを心から楽しみにしています。

全附P連PTA研修会 第16回全国大会



来賓挨拶
国立大学附属学校
全国同窓会
会長 塩谷 立氏

国立大学附属学校の全国同窓会会長を務めていただいているお立場からご祝辞を賜りました。

同窓会の紹介や会長に就任された経緯をご紹介いただいたあと、現在の教育環境の変化、不登校の問題などがあり、様々な改革をしなければならぬ時期にきているとお話をいただきました。

附属学校教育のあり方、大学との連携の中でも新たな取り組みをする時期、附属学校教育の活動をできるだけ多くの国民に伝えていただきたいとお言葉を賜りました。

また、現在PTA活動が全国的にも問題となっておりま。全国附属学校のPTAの活動は大変素晴らしい、このことを未来の子もたちのためにも、より多くの方々に広めていただきたいと、エールのお言葉を賜りました。



来賓挨拶
日本教育大学協会
会長 國分 充氏

日本教育大学協会の歴史や役割をご紹介いただき、教員の養成をいくうえでの附属学校園の存在することの重要性についてお話をいただきました。

現在は、附属学校のあり方検討ワーキンググループにおいて、国立大学附属学校の成果と課題を見える化するための研究開発の取り組み、また深刻な教員不足の現状と課題をお話いただきました。

今後も、日本教育大学協会の活動を通して、世の中に附属学校の価値を改めて認識していただき、附属学校教員の処遇改善にも努めていきたいとお言葉を賜りました。

全国国立大学附属学校PTA連合会の皆様はじめ、保護者の皆様には、ぜひこの活動についてご理解をいただき、共に子どもたちのために活動していこうと力強い呼びかけを頂戴しました。



主催者挨拶
一般社団法人 全国国立大学附属学校
PTA 連合会
会長 宮本 昌尚

時代を切り拓くために

9月26日、27日の2日間、リーガロイヤルホテル東京にて全附P連PTA研修会第16回全国大会を開催いたしました。会場に足を運んでいただきました多くの保護者、また先生方に感謝申し上げます。今年度は「重ね合う」をテーマとし、人と人や時を重ねていくことでこの国の未来を担う子どもたちや公教育を支える附属学校のために何ができるかを学ぶ良い大会になりました。様々な情報や氾濫する中、子どもたちを取り巻く環境は日々刻々と変化、また進化しています。親として、教師としての想いは不変ではないかと考えています。その想いを変えることなく時代に合わせた方法やツールを活用することによって学びの幅を広げていくことこそ今求められていることだと思います。今大会での学びを持ち帰り、今後の活動に生かしていただければ幸いです。

大会記念品・販売ブース

当日会場にご参加いただきました皆様に、記念品として全国の国立大学附属特別支援学校の生徒の皆さんが作製してくださいました製品をお渡しいたしました。ハーバリウム・クラフト製品・メッセージカード・箸置き等、とてもしっかりした素敵な製品ばかりでした。製品を作製している写真・動画のご提供をいただきまして、会場でご紹介いたしました。一生懸命に作製してくださっている様子に感銘を受けました。



販売ブースでは、特別支援学校内でオープンしているお菓子屋さんの焼き菓子、特別支援学校の卒業生が通所する福祉事業所で製作されたレザークラフト製品等を販売いたしました。

筑波大学附属特別支援学校の生徒さん・先生から販売のお手伝いをいただき、お菓子の詰め合わせを販売いたしました。

製品をご提供してくださいました全国の国立大学附属特別支援学校の生徒の皆さん・先生方、福祉事業所様のご協力に感謝申し上げます。

行政説明

PTA活動に関わる教育的トピックについて



文部科学省 総合教育政策局
地域学習推進課長
高田 行紀氏

令和6年度全国学力・学習状況調査 経年変化分析調査・保護者に対する調査の結果をもとにポイントをお話しました。令和3年から令和6年の変化において、子供の勉強時間が減少している中、テレビゲーム、SNS、動画視聴の保護者の使用時間が長いと子供の使用時間もそれぞれ長いという結果が出ていたのが印象に残りました。また、OECD加盟国中「家族による支援的な関わり」指標が最低評価の現状も大変ショックでした。その中、教員の働き方改革と並行して、コミュニティ・スクールをはじめとした学校と家庭、地域との協働が今後ますます重要になります。PTAに期待される役割は大きいとのことでした。

こども家庭庁におけるいじめ防止対策等の取組について



こども家庭庁支援局総務課長
小野 雄大氏

令和5年4月に創設されたこども家庭庁のスローガンは「こどもまんなか」。こどもまんなか社会の実現のために、こども政策のプロ集団として日々奮闘されています。こどもの意見を聞いてこども家庭庁の政策に反映していくとのこと。いじめ重大事態が過去最大を記録する中、いじめ防止対策として、①司令塔としての役割 ②地域体制の整備 ③いじめ重大事態調査に関する第三者性の確保等の役割を担われています。不登校においても切れ目のない支援、こどもの自殺対策にも取り組まれています。こどもが安心して育つ土台づくりを目指されています。

インターネット利用による児童の犯罪被害防止について



警察庁 生活安全局 人身安全・少年課
少年保護対策室長 兼 児童性被害対策官
警視正 渡部 剛士氏

SNSに起因する事犯の被害児童数は、減少傾向にあるものの依然として高い水準で推移しています。一方、小学生の被害児童数は平成27年に比べて3倍以上に増加しています。SNSにおいて、被害児童と被疑者が知り合うきっかけとなるのは、被害児童からの投稿が約7割を占めています。SNS上から18未満の性的画像や動画を削除するTIDというシステムがあり拡散防止に一定の効果が期待されます。オンラインゲームに起因する事犯も増加傾向にあり、ペアレントコントロール機能の活用や家庭内でのルール作りといった注意喚起をしています。

現在の附属学校をとりまく環境と目指すべき方向について



文部科学省 高等教育局専門教育課
教員養成企画室長
若林 徹氏

タイプの異なるA・B二つの病院を例に、Q1どちらの病院に通いたいのか。Q2どちらの病院を存続させるか。Q3病院Bを残すためには何が必要か。という若林室長の問いかけから今回の行政説明が始まりました。国立大学法人等全体の経常費用・経常収益では、H16年からR4年にかけて、経常収益が+10,442億円 経常費用が+10,694億円と収益・費用とも増加しています。他方、教員養成系単科大学では、経常収益が△28億円 経常費用が△13億円と減少しているのが現状です。少子化に伴い、教育需要の減少が見込まれる反面、いじめや不登校、通級指導や日本語の指導など、解決すべき教育課題は増加しています。こうした現状に対応するため、附属学校は、教員養成機能の維持に加え、多様化する課題に対応するための拠点・実験校としての役割が期待されています。ステークホルダーとの対話を通じて必要な見直し再整備をするチャンスでもあります。最後に、タイプの異なるA・Bふたつの附属学校を例に、Q1どちらの学校に通わせたいのか。Q2どちらの学校を存続させるか。Q3学校Bを存続するためには何が必要か。と再度の問いかけ。所属校のいまと比べ深く考える機会を頂戴しました。

全附P連PTA研修会 第16回全国大会

分科会2



だきました。

子どもたちのいのちを守るために ～ASUKAモデルと体系的な救命教育の推進～

「迷ったらやれ」と強調し、倒れた児童への迅速な判断と行動を呼びかけ、ジェンダー配慮を含むAED装着法や地域・企業との連携によるAED普及の重要性もご紹介いただきました。桐淵先生は「学校は社会で最も安全な場所であるべき」と語り、児童生徒自身が救命教育を通じて命の大切さを学び、社会へ貢献する姿勢を育むことが未来への希望だ」と講演いただきました。

講演を通して、子どもたちが命の大切さを学び、誰かを助ける力を身につけていくことに大きな希望を感じられました。



分科会1



る」姿こそが非認知

子どもたちと共に 非認知能力を育むために

能力を育てる土壌になると教えてくださいました。

また、学校や家庭、地域のそれぞれが子どもの成長を支える「チーム」として関わる意義にも触れられ、参加者一人ひとりが「育てる側」とあると同時に「育つ側」であることを実感しました。

中山氏の温かな語り口の中に、「子どもたちと共に生きる」ことの原点を見つめ直す時間となりました。非認知能力という言葉の奥にある、「人と人が支え合う力」を、これからの教育現場で大切にしていきたいと思えます。



分科会4



て意見交換を行いました。

障がいのある児童生徒に 有効な学校での防災準備

具体的な取り組み例として、ヘルプカードの活用、避難用マインドマップの準備、ローリングストックの実践などが紹介されました。

また、災害時の児童生徒の引き渡し訓練の必要性や、学校待機の方法についても、学校と家庭・保護者が協力して進めることの大切さを改めて確認しました。

さらに、災害時に障がい者が直面する困難やその対処法、アクセシブルなマニュアル作成、防災訓練への参加方法など、さまざまな情報が共有されました。これらの情報は日々更新されているため、常にアップデートしていく必要があることも学びました。

日頃から防災意識や準備訓練の重要性についても強調されました。災害時には平時に準備したことしか実行できず、準備がなければ「臨機応変」ではなく、単なる「場当たり」になってしまうこと（「型破り」ではなく「型なし」）になっことを再認識しました。

本講演は、少しでも災害による被害を減らすために、日常からの備えの大切さを改めて心に刻む機会となりました。



分科会3



次に「DIGITAL POSITIVE ACTION」

総務省とMeta社による連携企画 「ICTリテラシーについて」

にも参画しておられるMeta社日本人Facebook Japanの栗原さあや氏よりICT企業のお立場からのご講演をいただきました。Instagramで開始されたティーンアカウンターセクショントーク向け対策「Be a Down」の紹介とご説明をいただきました。

「Take a Down」は事前だけでなく事後であっても性的画像を登録しておくことで、加盟団体が運営するプラットフォーム上に該当画像が上った際に削除をしてもらえ、という貴重な情報をいただきました。

また、インターネット利用の低年齢化により、子供の安全を守るために保護者が理解を深めることの重要性を感じました。



情 報 交 換 会



本年度の情報交換会も、各校のPTA役員や教職員が一堂に会して意見を交わす有意義な時間となりました。

また、国立大学附属学校振興議員連盟会長の森英介様や2日目の基調講演者である美馬のゆり様にもご参加いただきました。

日頃のPTA活動で抱える課題や成功事例を共有し、より良い学校運営につなげるための大変貴重な場となっています。会場では、各地域の特色ある取組み、保護者とのコミュニケーション施策、行事の工夫、ICT活用の実践など、幅広いテーマについて活発な意見交換が行われました。

また、他県の附属校の活動状況を知ること、新しい発想や改善のヒントを得られるのも大きな魅力です。同じ附属学校として共通する悩みや課題を共有し合うことで、参加者同士のつながりも深まり、PTA全体のネットワーク強化にもつながっています。

全国の保護者や教員が互いに学び合い、次年度以降の活動の質を高めるための大切な時間となっています。

全附P連PTA研修会 第16回全国大会

附属セミナー

財政教育プログラムについて

財務省大臣官房地方課長補佐
森永 真次氏



第16回全国大会2日目の附属セミナーでは、財務省大臣官房地方課長補佐の森永真次氏が「財政教育プログラム研究授業」について講演されました。森永氏は、日頃の附属学校PTAの活動に敬意を表しつつ、財務局が地域社会の一員として取り組む「財政教育プログラム」を紹介いただきました。このプログラムは、平成27年度に附属学校の協力のもとスタートし、今年で10年目を迎えるアクティブラーニング形式の学習です。タブレット端末を用い、自分たちが目指す社会を話し合い、予算編成シミュレーションを実施することで、子どもたちが日本の財政や将来について考え、判断する知識を育むことを目的としています。プログラムは公立校にも広がりを見せており、森永氏は「全附連の皆様のご協力なしには、ここまで広がりはなかった」と感謝の意を述べました。

また、講演では、プログラムの質的向上を目指した2つの研究事業が紹介されました。

1. モデル授業の実施: 9月2日にプログラム開始の地である大阪教育大学附属平野小学校で、6年ぶりにモデル授業を実施。授業後には文科省や各大学、学校関係者、全附連の出席のもと、振り返りの場を設け、授業の質の向上に努めました。
2. 新たな授業の開発: 昨年度は和歌山県の中学校社会科研究会において、公立校、大学、財務省が連携し、「フューチャーデザイン」の考え方を盛り込んだ研究を実施。附属学校とのコラボレーションによる新たな授業開発の可能性を示しました。

森永氏は、今後も引き続き附属学校との連携・協力をしたいとご説明をいただきました。

幼児教育の今と国立大学附属幼稚園への期待

文部科学省初等中等教育局 幼児教育課長
石田 善顕氏



附属セミナー2では、文部科学省初等中等教育局幼児教育課の石田善顕氏が登壇し、「幼児教育を取り巻く最近の動きと国立大学附属園への期待」について講演しました。石田氏はまず、現在の幼児教育施設が、幼稚園、認定こども園、保育所と多様化している現状を説明しました。これらの異なる施設から、最終的にすべての幼児が義務教育である小学校へ進むため、「どこの施設に入っても一定の教育の質を担保すること」が行政の大きな課題であり、所管が異なる施設間（教育委員会、県、福祉部局など）の横の連携が特に重要であると強調しました。特に、全国に数は少ないながらも重要な役割を担う国立大学附属園に対し、文科省は以下の2点を柱とする大きな期待を寄せています。

1. 現代的な課題への先進的な研究と普及: 大学の教員養成課程との連携を前提としつつ、ICT、不登校、特別支援教育、外国人児童増加など、現代社会の課題に対応するための先進的な実践研究を担うこと。そして、その研究で得られた知見を公開保育、地域連携、指導資料開発などを通じて広く普及し、他の幼児教育施設を牽引していくこと。
2. 幼保小の接続強化: 小学校への円滑な移行（幼保小接続）は、不登校児童の減少にも寄与するなど極めて重要であり、附属園には小学校との連携強化の中心的役割を期待する。

国立大学附属園には、複雑化する社会の中で、未来を担う幼児の育成と教育の質の向上という、重要な役割が託されていることが改めて示されました。



PTA 活動事例発表

財務省と連携した附属中学校社会科における『財政教育プログラム』の取組みについて

和歌山大学教育学部
附属中学校 教諭
山口 康平氏



財政教育プログラムの長年にわたる実践と改善の取り組みについてご報告いただきました。このプログラムは、生徒たちが社会のさまざまな立場に立つて考え、あるべき日本の姿と予算について議論する活動を通して、主権者としての質を育むことを目指しています。特に最近では、未来を考える「フューチャーデザイン」を採用し、2050年の社会から逆算して「今すべきこと」を議論するなど、より創造的で深い学びに繋がっています。附属学校が地域のモデル校として地域や大学との連携を深め、専門家の知見を取り入れながら、毎年着実に授業内容を改善され、生徒だけでなく、先生方自身も議論の楽しさや重要性を体験し、授業づくりに活かしている点を共有いただきました。

福岡教育大学附属幼稚園PTA

前PTA城山キッズリーダー
前教育後援会副会長 土屋 真理子氏
PTA副会長 柿野 智子氏



本年度、PTA団体表彰にて会長賞を受賞された福岡教育大学附属幼稚園の活動をご報告いただきました。「飛行機に乗って世界を旅しよう」をテーマに、実際に園児が様々な国の文化を疑似体験することで世界観を広げる活動でした。この体験型のアクティブラーニングは学びの効果が高く、PTAと子供がお互いに成長することができたことでした。「できる人が、できる時に、できることを」というPTAの考えのもと、PTA主体となった活動し共に成長できたことが、幼稚園のみならず全ての教育機関に大きな影響を与えると感じました。

— 会長賞受賞作品 —

「飛行機に乗って世界を旅しよう」 講評

園児と保護者が一緒に世界を旅するというテーマのもと、飛行機を使った活動を通じて異文化への関心を育む取り組みがとても印象的でした。また、海外出身の保護者の協力やウガンダの留学生との交流など、多様性を自然に受け入れる姿勢が感じられます。「できる人ができるときにできること」という柔軟な関わり方が、保護者の主体性を引き出し、子どもたちにも前向きな影響を与えていると感じました。活動を通じて、子どもたちが世界を身近に感じ、異文化への理解を深めるきっかけになっている点が素晴らしいです。

大会宣言

私たちは、「子どもたちとこの国の未来のために」認め合い、共に時代を切り拓こう」をスローガンに掲げ、全国各地より志を同じくする仲間が集い、これからのPTA活動のあり方を真摯に論じ合いました。その歩みを通じ、私たちは、多様な価値観や背景を持つ人々が互いに敬意を払い、理解し合うことの尊さを、改めて深く胸に刻みました。

本大会では、単なる情報の伝達にとどまらず、立場や経験の垣根を越えた対話を重ね、新たな視点と気づきを得ることができました。そして、子どもたちの成長を支える基盤は、家庭・学校・地域が互いを認め合い、手を携えて歩む姿勢にこそあることを強く再認識いたしました。

教育の方法や価値観は時代とともに移り変わります。しかし、子どもたちの幸福と健全な成長を願う普遍的思いは決して揺らぐことはありません。私たちは、この原点を決して忘れることなく、国立大学附属学校の使命と存在意義を広く社会に示し、地域と共に歩む学校であり続けるために、不断の努力を重ねてまいります。

ここに、子どもたちとこの国の未来のために、全附P連の仲間と心をひとつに結集し、新たな時代を切り拓くべく、力強く宣言いたします。

令和7年9月27日

一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会
全附P連PTA研修会
第16回全国大会

全附連盟特集ページ「子どもの育ちと学びを支える」

兵庫教育大学附属学校園

「子ども発達支援」と「スクールロイヤー」の配置

～子どもたちと教職員の「Well-being」をめざして～

学校園

はじめに

兵庫教育大学附属学校園では、これまで長期欠席の未然防止や不登校傾向のある児童生徒とその保護者への相談・支援に取り組むとともに、保護者の皆さまからのご意見やご要望にも、真摯に向き合い対応を重ねてまいりました。しかし近年、教育現場が抱える課題はますます複雑かつ多様化しています。さらに、附属学校園には広い地域から通学する児童生徒が多いため、行政機関や医療・福祉機関との連携が難しく、必要な支援が選れず可能性も出てきています。

こうした状況を踏まえ、今年度より新たに「子ども発達支援医（児童精神科医）」と「スクールロイヤー（教育法務専門弁護士）」を配置し、より専門的な支援体制を整えました。前者は児童生徒の身体的・精神的な状態について医療的な視点から見立てを行い、必要に応じて適切なケア等の提案、保護者との相談や助言等も行う。後者は、学校園が直面する様々な課題に対して法律の専門家として助言や指導を行い、より適切な対応ができるよう支援します。

2-①子ども発達支援医

- ・本学附属学校教職員・保護者からの児童生徒等の心身、発達に関する相談に対して、医療的知見に基づく助言や提案を行う。
- ・毎月2回程度メール、電話、リモート会議等の方法で相談を行う。
- ・学期初めと3月の年4回程度を目途に来院し、児童生徒等の状況の観察並びに教職員への助言等を行う。



スクールロイヤー研修の様子

スクールドクター相談の様子



2-②のスクールロイヤー

- ・個別事案に対して法的視点での助言、学校運営等における法的整理を行う。
- ・学校で起こりうる事案を想定し、法務的見地から教職員対象の研修を行う。
- ・毎月1回程度メール、電話、リモート会議等の方法で相談を行う。

3期待する効果と今後の展望

毎月行う専門家との相談は、子ども一人ひとりの困りごとや必要な支援について、各校園で丁寧な課題等を整理（アセスメント）したうえで、各校園合同で実施しています。これにより、教職員は自信をもって子どもたちに対応できるようになり、個別の課題への的確な支援やトラブルの未然防止も図れます。また、学級経営の充実にもつながり、校種を越えた情報共有にも着実に効果が出ています。

このような相談体制は、全国の国立大学附属学校園の中でも先進的な取り組みであり、都道府県レベルでもまだ十分に進んでいない専門家の活用方法だと考えています。子どもたちが安心して学校生活を送れる環境づくりに貢献するだけでなく、教職員の負担軽減や働き方の改善にもつながっています。私たちは、こうした取り組みを通じて、子どもも教職員も心身ともに健やかで充実した毎日を送らせる「Well-being」の実現をめざしています。今後も、教職員がより良い支援の方法を学びながら、一人ひとりの子どもの豊かな学校生活と健やかな成長を大切にしていきたいです。

香川大学教育学部附属高松中学校

自らを高め続け、新たな時代に向けて責任をもち行動する人間の育成
～知性と省察性を育むカリキュラムを通して～

開中

教科学習

各教科が、**教科する教科学習**（各教科ならではの魅力や意義、その教科を学ぶ意義の実感につながる知識のプロセスに参加する教科学習）の実現とともに、知性を育む方法を設定して研究を進めています。併せて各教科で育む知性の観点から、学習内容や指導内容の見直しを行い、よりよい教科学習の在り方を模索しています。

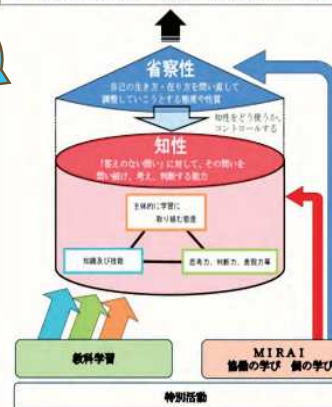


教科する教科学習の例
保健体育で、放物運動における回転体のメカニズムを解説し、技の達成度を追求している場面

MIRAI

同学年の仲間や多様な他者と協働で地域や社会に働きかける**生徒主体のプロジェクト型の学習と省察の時間**を編成した「協働の学び」と、生徒一人一人の**自由で主体的な探究活動とゼミ**を編成した「個の学び」からなる新領域「MIRAI」を展開しています。「MIRAI」では、教科で育んだ知性を発揮し伸ばすとともに、省察性を育みます。

目指す生徒像：自ら立ち立つ力に基き、自らに生きつつ他者を尊重する人間
主題：自らを高め続け、新たな時代に向けて責任をもち行動する人間



協働の学び
3年生プロジェクト例
社会の中で誰かにとっての幸せをつくりだすことを目標としたイベントの場面



個の学び
探究課題の一例
「紙飛行機をより速く飛ばすためには」という課題についての探究成果を、実演を交えて発表している場面



伝統を礎に明日の教育を創る

お茶の水女子大学附属小学校

本校は今年で147年という歴史と伝統があります。伝統に裏打ちされた「確かな」と、時代の抱える教育課題への対応を先駆的に研究する「新しい」を兼ね備えた学校だと自負しています。教育目標「自主協同」を具現化すべく、子ども主体の学びを追究し大学や附属学校と連携して積み上げてきた教育研究の系譜と現在の研究的な取り組みをご紹介します。

本校の主な研究のあゆみ

※お茶は研究開発学校指定を受けた研究

- 1976年 「創造活動」の取り組みを開始。
- 1977-78年 「低学年における総合的統合的方法に関する研究」 **生活科・総合**
- 1985-87年 「幼稚園及び小学校の教育の連携を図る教育課程の研究」
- 1992-94年 「小学校において児童の学習態度に対応して、基礎的な学力の一層の定着を図る研究開発」 **幼小接続期研究**
- 1997-00年 「小・中の連携を図る教育課程の研究開発」
- 2001-03年 「関わりあって学びを育む教育内容・方法の開発」
- 2005-07年 「幼・小・中12年間の学びの連続性と連続性を考えた連携型一貫カリキュラムの研究開発」 **シティズンシップ教育**
- 2008-10年 「小学校における『公共性』を育む『シティズンシップ教育』の研究開発」
- 2014-15年 「スーパー・食育スクール」(文科省指定)
- 2015-18年 「教育課程全体で人間性・道徳性と思考力を関連づけて育む研究開発」
- 2019-24年 「自ら学びを構想し、主体的に進める新領域「てつぐ」創造活動」を中核に据え、メタ認知スキルや社会情動的スキルを育成する教育課程の開発

創造活動

新教科「てつぐ」

「学びを愛む」～関係性の中で生成される主体～



同一キャンパス内に全ての学校園があるという地の利を生かした大学及び幼稚園・中学校・高等学校との緊密な連携研究

小

特

国立大学法人 山梨大学教育学部附属特別支援学校

自ら考え、行動し、まわりの人と助け合いながら生き生きと生活できるたくましい心と体を養う。
◎心身を鍛え、健康を維持し、つよい心と体をもつ
◎身のまわりのことを自分でできる
◎人とのかわり合いがもたらす、仲間と協力できる
◎自ら考え、持てる力を発揮し、いっしょに行動できる
◎幅広い視野をもち、心豊かで文化的な生活を営む

教育目標

高等部 = 交流及び共同学習 =

◎同世代の生徒と関わり、交流することで互いに理解を深める
◎文化的な交流及び共同学習を通して、豊かな心を育てる

高等部では、きりの子まつり(学園祭)の和太鼓発表に向けて、「太鼓祭 日本一決定戦」において、何度も全国優勝を果たしている日本航空高等学校太鼓隊(山梨県甲斐市)のみさんと毎年学校間交流を行っています。

7月、生徒たちが心待ちにしていた交流会が本校の体育館で行われました。太鼓隊の演奏が始まると、みんなの迫力に圧倒されながら聴き入っていました。凄みだけでなく温かみも感じさせる音の強弱、豊かな表情、一糸乱れぬ所作、真剣でひたむきな姿勢など、本校の生徒たちにとって学びがたくさんありました。

また、合同練習・合同演奏の時間には、やさしくアドバイスをしながら太鼓隊のみさんとふれあうことができました。

高等部だけでなく小・中学部の生徒と保護者の方々の参加もあり、会場が熱気に包まれました。

「迫力のある演奏で、体育館だけでなく、私たちの心にも響いた」との感想が聞かれました。

きりの子まつり(学園祭)

きりの子まつり(学園祭)

きりの子まつり(学園祭)

きりの子まつり(学園祭)

きりの子まつり(学園祭)

きりの子まつり(学園祭)

省 庁 出 前 教 室 紹 介



文部科学省

文部科学省

文部科学省では、「学校と地域でつくる学びの未来」の取組の一環として、民間企業・団体・大学などが提供する教育プログラムの情報を集約し、学校や教育委員会での活用を推進しています。科学技術や環境、防災、金融、福祉など、幅広い分野のプログラムが登録されており、子どもたちの興味や地域の特色に応じて選択できる仕組みです。これにより、学校と地域・社会を結び、実社会とつながる学びを実現しています。

また、文科省は「キャリア教育」や「探究的な学び」の推進にも力を入れており、出前授業や地域人材の活用を通じて、子どもたちが将来の職業や生き方を考える機会を広げています。こうした取組を通して、地域とともに子どもの主体的な学びを支える教育環境の整備を進めています。



JICA（国際協力機構）

国際協力や開発途上国の現状について学ぶ「国際協力出前講座」を実施。職員や海外協力隊経験者が学校を訪問し、現地での体験や課題を紹介することで、国際理解と共生の心を育む機会を提供しています。



経済産業省

経済産業省

小・中・高校生を対象に、「身のまわりにある標準化」や「社会に役立つものづくり」などをテーマにした出前授業を実施。身近な製品やサービスを通して、社会を支える仕組みや産業の重要性を楽しく学ぶことができます。

財務省

Ministry of Finance, JAPAN

財務省

財務省では、国の財政の仕組みや課題を身近に学べる「財政教育プログラム」を実施しています。授業や講座を通して、税金や予算の役割を考える機会を提供し、将来の納税者・有権者として必要な社会的視点を育てます。

本年度は、埼玉大学教育学部附属小学校や大阪教育大学附属平野小学校などでも実施され、児童が模擬予算編成や国の支出配分を体験しながら、公共サービスの重要性を学びました。授業は教員との共同開発により行われ、わかりやすい教材や動画なども整備されています。

さらに、家庭での学びを支援する「子育て世代向け講座」も展開し、親子で財政リテラシーを高める取組を推進。家計と国の財政のつながりを理解することで、家庭から社会全体への関心を広げる内容となっています。



総務省

総務省

次代を担う子どもたちが選挙や政治への関心を高め、主権者としての意識を育むことを目的に、「選挙に関する出前授業モデル」を作成しています。岐阜大学教育学部附属小中学校および愛知教育大学附属岡崎中学校の協力のもと、実際の授業での実践を踏まえて2種類のモデルを開発。生徒が模擬選挙を通じて投票や開票の流れを体験できる内容となっており、授業実施に役立つ指導案や教材データも公開されています。これらのモデルを全国で活用することで、民主主義社会を支える主権者教育の充実を図っています。



農林水産省

農林水産省

食と農の大切さを伝えるため、職員が学校に出向く「食育出前授業」を実施しています。農業や漁業の役割、食料の安全や地産地消の意義などをわかりやすく紹介し、子どもたちが食や自然への関心を深めることを目指しています。



こども家庭庁

こども家庭庁

家庭内で介護や世話を担う「ヤングケアラー」への理解を深めるため、出前講座を実施。子どもたちや教職員が正しい知識を学び、支援の必要性や周囲の気づきの大切さを考える機会として活用されています。



国土交通省

国土交通省

道路、河川、都市計画、防災、環境など幅広い分野の専門職員が講師として学校や地域に出向き、「出前講座」を実施。社会インフラの役割や防災意識の向上など、実社会とつながる体験的な学習を支援しています。



国土地理院

国土地理院

地図や測量の仕組み、地理情報の活用などについて学ぶ「出前授業」を実施。専門職員が学校に出向き、地図づくりの方法や災害時の地理情報の役割をわかりやすく解説し、地理への興味と理解を深める機会を提供しています。



法務省

法務省

法務局、検察庁、少年鑑別所などの職員が学校に出向き、法の役割や人権、ルール大切さを学ぶ「法教育」に関する授業を行っています。実際の事例を通して、社会の一員としての責任や公正な判断力を育むことを目的としています。



外務省

外務省

ODA（政府開発援助）をはじめとする日本の国際協力について理解を深めるため、職員が学校に出向く「国際協力出前講座」を実施しています。世界の課題や日本の役割を学び、国際社会への関心を育む機会を提供しています。



金融経済教育推進機構(J-FLEC)

学校向けに金融や経済の仕組みを学ぶ無料の出張授業を実施。専門講師が派遣され、金銭管理や消費、投資など身近なテーマを通して、子どもたちの金融リテラシー向上を支援しています。



警察庁

警察庁

各都道府県警察本部や警察署、交番が中心となり、学校や地域団体を対象に出前授業や防犯教室を実施。交通安全やネットトラブル、防犯対策など、身近なテーマを通して安全意識を高める学びの場を提供しています。



国総研 国土技術政策総合研究所

環境や防災、道路や河川など生活に身近な社会基盤に関する「出前講座」を実施。専門研究員が最新の研究成果や政策をわかりやすく紹介し、社会を支える技術や仕組みへの理解を深めます。

主管校所感



北海道教育大学
附属函館小学校PTA会長
長谷川 康介氏(右)
附属特別支援学校PTA会長
成田 恵美子氏(左)



「キラキラ★未来を描いて」をテーマに、今年度の絵画コンクールを北海道教育大学附属函館小学校と特別支援学校の二校で主管させて頂きました。

過去の絵画コンクールを参考にも入念な打ち合わせを重ね、リハ・サルも本番さながらに行うなど、万全の体制で二次審査本番に挑みました。

函館小学校の体育館いっぱいには並べられた作品はどれも素晴らしく、4名の審査員の皆様も選考には悩まれておりましたが、作品から

北海道教育大学附属特別支援学校
PTA会長 成田恵美子

第21回 全附P連 絵画コンクール

今年度の絵画コンクールは「キラキラ★未来を描いて」をテーマに開催されました。園児・児童・生徒の皆さんが真剣に取り組んでくれ、応募作品の総数は1,968点を数えました。2次審査は主管校である北海道教育大学附属函館小学校・附属特別支援学校で行われ、4名の審査員の先生方は子どもたちの作品1枚1枚に真剣に見入っていました。子どもたちの思い描く未来があるの



主管校紹介

北海道教育大学附属函館小学校 附属特別支援学校

【函館小学校】

本校は、幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校が同じ敷地内にある附属函館小学校園の中にあります。全校児童385名は、学校教育目標にあるとおり「強く明るく 正しく」毎日元気に登校し、生き生きと学んでいます。

本校の子供たちは、やりたいことを見つける達人であり、自分たちで学習や行事を創り上げるやる気に満ちています。「やり遂げた喜びいっぱいまた明日！」は子ども達だけでなく教職員も保護者も大切にしているキャッチフレーズです。教職員は子供の学び、心の成長を全力で支える熱意にあふれ、保護者の皆様は、子ども達への愛情に満ちています。PTA各部の活動、桐の子祭り、桐の子花火大会等、全PTA会員が主体的・自主的に企画運営してくださいます。全ての大人が子供たちの成長とその後の人生に広がるキラキラ輝く未来のために一致団結する姿こそ本校の最大の魅力です。



【特別支援学校】



本校は、小学部、中学部、高等部の児童生徒57名が在籍しています。人や地域とのかかわり合う力を育成し、社会参加を目指す実践的な教育を進めています。学校教育目標「学ぶことを楽しみ 次の学びに意欲がもてる子どもを育てる」のもと、児童生徒は、楽しみながら自信をもつて活動しています。また、幼稚園、小学校、中学校との四校園の交流及び共同学習の充実、大学や地域連携を構築し、新しいインクルーシブ教育モデルを実践する学校を目指しています。PTAでは「よかしえんガイドブック」第4版を作成中です。この中に掲載している施設・公園・病院等は、本校の児童生徒だけではなく地域の皆さんが活用しやすいユニバーサルデザインが満載です。これからも学校とPTAが協力し、子どもたちが描いたキラキラ未来を支える、優しい学校、地域、環境づくりに取り組んでまいります。

審査員講評

たくさんのキラキラ未来



北海道教育大学
函館校 特任教授
(特別支援教育)
五十嵐 靖夫氏

「キラキラ☆未来を描いて」というテーマで行われた第21回のコンクール2次審査で、387点の作品に出会いました。どんな子どもが描いたのかな、どんな思いが込められているのかな、どんな表情で描いていたのかなと想像しながら、作品を一つずつ見ました。力強いタッチ、大胆な構図、色鮮やかな彩色、ユニークな発想など、素晴らしい作品の数々を見ているうちに、笑顔になっている自分に気づきました。審査はとても悩み、難しいものでしたが、このような素敵な機会をいただき、幸せな気持ちになることができましたことを心より感謝申し上げます。

その子は、 未来を描こうとしたのか？



北海道教育大学
函館校 特任教授
(初等図画工作)
中村 吉秀氏

キラキラの未来を描くことは、自己の内面世界を示すことである。一つ一つ決めながら表現していく。それも過去について様々な思いを巡らしながら、どのように表現していくのか、楽しく夢中になれる時間だったと考えられる。そのような作品を丁寧に審査していくことは、未来が感じられるのかということを確認することである。さらに、キラキラとは、明るく幸せそうな色づかいや描かれたものを示しているようにも感じられる。

では、キラキラの未来とは何か。子どもたちにとって、豊かに生きている世界のことだろうと思っている。そのような世界を表現した作品ばかりで、審査していると幸せな気持ちになっていく。そして、たくましい推進力で描かれた作品は創造力の伸展が期待され、それぞれの基底にある「生命力」を覗いているような気がしていた。

キラキラの輝き



一般社団法人
全国国立大学附属学校
PTA連合会 会長
宮本 昌尚

2次審査会で子どもたちの絵画を審査いたしました。どの作品も想いのこもったもので、輝かしい未来を描いたもの、楽しかった思い出や風景を表現したもの、豊かな感性を存分に発揮して表した素晴らしいものでした。汗をかきながら一生懸命に描いた情景や感情を想像すると優劣を付け難く苦労しましたが、力強さの中にも繊細な部分に気を配りながら一点一点慎重に見ていきました。このような素晴らしい多くの作品に出会えたことに感謝するとともに、子どもたちの未来がキラキラと輝かしいものになることをお祈りいたします。

純粋な表現力に触れて



北海道教育大学
函館校 准教授
(美術教育)
牧野 香里氏

この度、各賞受賞をされた、また出品されました児童生徒の皆様、素晴らしい作品をお送りいただき本当に有難うございました。私自身、研究として日々創作研究をしておりますが、子どもたちの作品から頂くエネルギー、発想の柔軟性にただただ脱帽しておりました。とかく、大人になりますと絵に対して効果を求めるようになり、純粋さが失われるような気がしてなりません。保護者の皆様におかれましても、子ども達の純粋な「表現したい」という気持ちをぜひ見守ってあげてください。

学校園優秀賞

幼稚園部門
小学校部門
中・高等学校部門
特別支援学校部門

長崎大学教育学部附属幼稚園
北海道教育大学附属函館小学校
山形大学附属中学校
北海道教育大学附属特別支援学校

第21回

全 附 P 連

絵画コンクール

「キラキラ★未来を描いて」

入賞作品

会長賞



香川大学教育学部附属特別支援学校
角田 瀬凪
アートのNo.1になってやるぜ!!



香川大学教育学部附属高松小学校
森田 柳倫子
はねがきれいなとんぼをみたよ

特別賞



上越教育大学附属小学校
長井 美月
海の中で新種の花発見



千葉大学教育学部附属小学校
木村 碧志
僕の魚



鳴門教育大学附属小学校
谷口 詩歩
附小ワールド



鳴門教育大学附属幼稚園
和田 明依
ひまわり畑ではじける笑顔



山形大学附属中学校
古田 温樹
輪(わ)



香川大学教育学部附属坂出小学校
宮武 煌明
やめられない!!この興奮



愛媛大学教育学部附属幼稚園
藤本 瑛二
カブトムシが家にやってきた



鳴門教育大学附属小学校
三好 陽
ドジャースタジアムのマウンドで轉きたい!



大阪教育大学附属池田小学校
松永 翔歩
夢みるキリン



鳴門教育大学附属小学校
谷口 大知
それいけ!ばくのくるまくん



千葉大学教育学部附属幼稚園
廣田 賢亮
宇宙人がみた宇宙



山形大学附属中学校
中根 悠翔
もう一度行きたい夢の天の川



筑波大学附属大塚特別支援学校
石埜 健翔
ぼくは、みんなとラーメンをたべたい!



筑波大学附属大塚特別支援学校
白土 虎太郎
未来はきっとこんな色



山形大学附属中学校
近藤 寛高
闇の中の光彩



鳥取大学附属小学校
山崎 陽葵
まほうの花火

キラキラ★未来賞



鹿児島大学教育学部附属幼稚園
米盛 博央
みんなで食べるとおいしいね



宮城教育大学附属小学校
荒川 潤希
平泳ぎで1位



秋田大学教育文化学部附属小学校
鈴木 遼一朗
ミライ わくわくパーク



千葉大学教育学部附属小学校
山口 拓太郎
オーロラとわく星



大阪教育大学附属平野小学校
中野 ディニティ 碧雲
2025年Doctorルアン



山形大学附属幼稚園
小峯 一葉
ひまわりおおきかったよ



熊本大学教育学部附属高等学校(前期)
坪川 偉大
キラキラの未来の都市



福岡教育大学附属小学校
森本 真白
未来の吉野川



北海道教育大学附属函館小学校
平野 陽大
未来の虹のかけ橋



京都教育大学附属桃山小学校
岡田 佑真
未来の虹のかけ橋



山形大学附属中学校
松岡 春志
眺望



長崎大学教育学部附属幼稚園
大熊 真登吾
ひとりでお遊べるようになりたいな



三重大学教育学部附属中学校
服部 日葵
星でつながる未来



東京学芸大学附属特別支援学校
滝沢 将吾
よぞらにはなびをうちあげろ!



和歌山大学教育学部附属特別支援学校
赤澤 光紀
ニホンアシカが住めるきれいな海



筑波大学附属大塚特別支援学校
梶子 裕真
ぼくのだいすきなソフトクリーム



茨城大学教育学部附属小学校
中村 颯人
ぼくたちの子どものせかい



山形大学附属中学校
小笠原 陽菜
夏の約束



上越教育大学附属小学校
長井 奏介
ぼくの大好きな夏のおまつり



鹿児島大学教育学部附属小学校
柴崎 政仁
育ててくれて、ありがとう



広島大学附属三原小学校
丹下 雅仁
ツリーハウス



香川大学教育学部附属高松小学校
清瀬 夢
シマエナガ、オーロラの空へ



香川大学教育学部附属幼稚園高松園舎
関 菜々子
うちゅうのながれぼしコンサート



静岡大学教育学部附属幼稚園
小林 ゆい
どうぶつがにのなかであそんでいる



福岡教育大学附属幼稚園
西出 奏沙
パイロットになって宇宙へGO!!



福岡教育大学附属幼稚園
北辺 辰彦
キラキラをさがして



静岡大学教育学部附属静岡小学校
河村 伎
いろいろな木



奈良教育大学附属小学校
飯田 望央
「ゆめのながいすべりだい」



高知大学教育学部附属小学校
和田 真実
かんらんしゃのホテル



鹿児島大学教育学部附属小学校
味岡 佳鈴
あの電車でゆめのうちゅうへGO!



茨城大学教育学部附属小学校
小森 花
どんな人でも



神戸大学附属中等教育学校(前期)
堀口 桜乃
成功の導



山形大学附属中学校
芳賀 小夏
海沿いの夕焼け



福岡教育大学附属中学校
佐藤 清
夜景



福岡教育大学附属中学校
和田 美結
はじける笑顔



埼玉大学教育学部附属特別支援学校
平 樹里
キラキラ世界の花



埼玉大学教育学部附属特別支援学校
藤原 奈々
友達とのキラキラ思い出



東京学芸大学附属小金井小学校
若佐 唯生
花火と気球



金沢学芸大学附属特別支援学校
加川 幸
馬と私の輝く瞳



大阪教育大学附属池田小学校
佐藤 玲奈
心に花を



北海道教育大学附属特別支援学校
松井 智也
泣く女(パブロ・ピカソ作)模写



埼玉大学教育学部附属特別支援学校
菊地 優作
来年も行きたい場所〜大和田花火大会〜

カンガルー賞



上越教育大学附属小学校
長井 奏介
ぼくらの未来



鹿児島大学教育学部附属小学校
柴崎 政仁
育ててくれて、ありがとう



広島大学附属三原小学校
丹下 雅仁
ツリーハウス



香川大学教育学部附属高松小学校
清瀬 夢
シマエナガ、オーロラの空へ



香川大学教育学部附属幼稚園高松園舎
関 菜々子
うちゅうのながれぼしコンサート



静岡大学教育学部附属幼稚園
小林 ゆい
どうぶつがにのなかであそんでいる



福岡教育大学附属幼稚園
西出 奏沙
パイロットになって宇宙へGO!!



福岡教育大学附属幼稚園
北辺 辰彦
キラキラをさがして



静岡大学教育学部附属静岡小学校
河村 伎
いろいろな木



奈良教育大学附属小学校
飯田 望央
「ゆめのながいすべりだい」



高知大学教育学部附属小学校
和田 真実
かんらんしゃのホテル



鹿児島大学教育学部附属小学校
味岡 佳鈴
あの電車でゆめのうちゅうへGO!



茨城大学教育学部附属小学校
小森 花
どんな人でも



神戸大学附属中等教育学校(前期)
堀口 桜乃
成功の導



山形大学附属中学校
芳賀 小夏
海沿いの夕焼け



福岡教育大学附属中学校
佐藤 清
夜景



福岡教育大学附属中学校
和田 美結
はじける笑顔



埼玉大学教育学部附属特別支援学校
平 樹里
キラキラ世界の花



埼玉大学教育学部附属特別支援学校
藤原 奈々
友達とのキラキラ思い出



東京学芸大学附属小金井小学校
若佐 唯生
花火と気球



金沢学芸大学附属特別支援学校
加川 幸
馬と私の輝く瞳



大阪教育大学附属池田小学校
佐藤 玲奈
心に花を



北海道教育大学附属特別支援学校
松井 智也
泣く女(パブロ・ピカソ作)模写



埼玉大学教育学部附属特別支援学校
菊地 優作
来年も行きたい場所〜大和田花火大会〜

財政教育プログラム研究授業 紹介



大教大附属平野小にて財政教育プログラムの研究授業

財政教育プログラムの研究授業が、9月2日（火）に大阪教育大学附属平野小学校にて実施されました。当日は、文部科学省から若林徹室長をはじめとする関係者、さらに財務省職員など、あわせて約50名が来校し、熱心に授業を観察されました。授業の様子はオンラインでもライブ配信され、全国各地から多くの教育関係者が視聴するなど、現地参加と合わせて総勢100名程度が関わる大規模な取組となりました。

授業後に行われたふりかえりの場では、財政教育プログラムの一層のブラッシュアップをめざして活発な意見交換がなされました。授業内容や教材構成、児童の理解度を高めるための工夫など、現場からの具体的な提案も数多く出され、今後の改善に向けた貴重な示唆が得られました。また、情報交換会では、特別支援学校における財政教育プログラムの導入や運用の可能性についても協議が行われ、附属学校における実践の広がりとして、その検討の意義を再確認する有意義な機会となりました。

さらに、実施回数をひとつの指標として継続的な拡充を図るとともに、プログラムを受講した児童の数年後の意識や行動の変化を追跡し、その教育的効果を科学的に実証していくことの重要性についても議論がなされました。

これらの議論を通して得られた示唆を今後の取組に生かし、附属学校が先導的な役割を果たしながら、子どもたちの生涯にわたる財政リテラシーの育成に資する教育モデルの確立を目指していきます。

附属学校・PTA・地区会 活動紹介

詳細と最新情報はこちらに→



PTA講演会開催

～高野 優先生をお迎えして～

東京学芸大学附属小金井中学校
コラムニスト・育児漫画家として広く活躍されている高野優先生を講師としてお招きし、「思春期コロシアム・反抗期と思春期のトリセツ」という保護者向け講演会を開催。



FBS (Fuzoku Brushup Seminar) の実施

鹿児島大学教育学部附属中学校

現職教員の教育振興に寄与することを目的としており、年間を通して鹿児島県内外の現職教員の先生方に対し、本校を研修の場として提供するもので、本活動も6年目を迎えた。



総合的な学習の時間における「大学探究DAY」の取組

北海道教育大学附属函館中学校

函館中学校が今年度新たに発案した学習プログラムで、北海道教育大学函館校との連携のもとで実現した活動。



子どもたちの笑顔と親子の会話を生むアイスクリーム配布企画

三重大学教育学部附属小学校

令和7年度1学期、本部事業の一環として、暑い中毎日がんばって登校し、勉強に励む子どもたちへのご褒美として、アイスクリームの配布を実施。



特色ある教育「よりよい生き方を探究する生徒の育成」～その学び どう生かす～

宮城教育大学附属中学校

学年毎に段階的なキャリア教育を実施し、自分の成長を実感できる仕組みを整え、今後も地域や保護者の方々と連携しながら、一人ひとりの「よりよい生き方」を共に考えていく。



『Well-being』の観点からの働き方改革～「子ども発達支援医」と「スクールロイヤー」の配置～

兵庫教育大学附属中学校

子ども発達支援医（児童精神科医）とスクールロイヤー（教育法務専門弁護士）といった専門家を配置し、専門的知見に基づく対応体制によって、子どもの健やかな成長を支える。



ドキドキ!?ワクワク!!初めてのバザー～150周年記念に向けて、つながりを育む第一歩～

大阪教育大学附属天王寺小学校

PTA主催の初バザーは、保護者・先生方の温かな協力のもと大盛況となり、150周年に向けて学校・家庭・地域をつなぐ貴重な一歩へ。



見える化でつながる育友会～育友会ってどんなことしてるの?～

三重大学教育学部附属幼稚園

活動の見える化を通して、日頃から誰もが参加しやすい・参加したくなるような育友会づくりを目指す。



兔原祭におけるPTA活動紹介

神戸大学附属中等教育学校

毎年5月に開催される文化祭「兔原祭」は、生徒・保護者・PTAが一体となってつくり上げる、活気あふれる行事。PTAによる制服リユースやオリジナルグッズ販売などの収益は生徒会に寄付。



詳しくは全附属ホームページにてご紹介しています!

本頁に掲載の附属学校およびPTAの取り組みについては、全附属ホームページ「附属学校・PTA活動紹介」で詳しくご紹介しています。

また年度を通じて、附属学校やPTA関係者の皆様に活動の情報提供をお願いしています。

全附P連は、ご提供いただいた情報の発信に努め、今後もその実践的な活動を広く周知していきます。皆様からの情報提供をお待ちしています!



国立大学附属学校 グッドプラクティス

全国の附属学校園・単位PTAのグッドプラクティスを全附連ホームページにて、ご紹介しています。

どの活動も魅力的で、まさに附属学校の「グッドプラクティス」そのものです！

是非、一度ご確認ください。



QRコード集



全附連
ホームページ



全附P連
パンフレット



全附P連
チャンネル



全附P連
Instagram



全附P連
X



全附P連
Facebook

全附P連PTA研修会 全国大会

第16回全国大会 オンデマンド配信

2025年9月26日・27日に実施しました第16回全国大会の動画を配信します。

すばらしい講演動画となっておりますので、是非ご覧ください。

動画配信は、12月1日～12月31日となっております。

くすのき先生の基調講演の動画につきましては、12月15日～21日までの配信となります。



動画視聴URL
<https://tinyurl.com/zenfu2025>



参考資料大会要項URL
<https://www.zenfuren.org/wp-content/uploads/2025/10/youkou16.pdf>

第17回全国大会 開催地は横浜に決定!!

開催日 2026年9月25日(金)・26日(土)

開催場所 パシフィコ横浜

「子どもたちとこの国の未来のために
～つながる保護者×ひろがる学校
＝未来を動かす子どもたち～」



第8回作文・絵作文コンクール

テーマ「せんせい、ありがとう!」

応募規定 作文の部 (1,600字)

絵作文の部

作文 400字以内

絵画 A4用紙(白無地)1枚

審査委員長

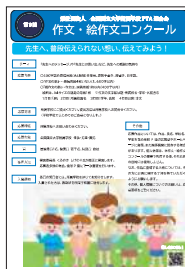
くすのき しげのり氏
(児童文学作家)

応募日程方法

所属学校に
お問い合わせください。

結果発表 3月下旬

結果通知は、所属学校園を通して通知させていただきます。



全附連ホームページに掲載の「応募要項」をご確認ください。

あいサポーター研修

開催校を募集中

あいサポート運動は、障がいの特性を理解し、ちょっとした手助けにより誰もが暮らしやすい社会を創っていく運動です。全国の附属学校が、地域における「やさしさの中心」となっていけるよう、全附P連は、附属学校の子どもたちや保護者の方を対象とした「あいサポーター研修」の開催を推進しています。

詳しくはこちら



香川大学教育学部附属坂出中学校

発行所

全附連 | 全国国立大学附属学校連盟
(一社)全国国立大学附属PTA連合会
〒113-0033
東京都文京区本郷4-16-6
文京区本郷四丁目ビル
天翔オフィス後楽園9階905号室
TEL 03-5990-9444
FAX 03-5990-9445
E-mail jimukyoku@zenfuren.org
印刷 株式会社インテックス

編集後記

今回の「附属だより」も、皆様のお手元にお届けすることができました。先生方、保護者の皆様、そして児童・生徒一人ひとりが、どのようにしたらよいのか、全国大会のセミナーや各校の実践事例などからは、その問いに対する真摯な答えと、未来の教育を担う国立大学附属学校園としての強い使命感が伝わってきたのではないかと思います。本誌は、全国の附属学校間はもうそろそろ、全国の附属学校間はもうそろそろ、そして教育関係団体との貴重なコミュニケーション・ショウケースとして、皆様からの意見・ご感想は、連合会の活動の大きな推進力となります。紙面制作上協力いただいた皆様、この一冊が、日本全体の教育の向上へ向けた新たな対話のきっかけとなることを願っております。(村上哲平)

編集委員
全附連盟
令和7年度情報広報委員会委員長
関口 睦
(埼玉大学教育学部附属中学校)
全附P連
令和7年度広報委員会
副委員長兼専務理事
羌 歆應 (神戸小)
副会長
世古 丈人 (三重中)
委員長
村上 哲平 (静岡浜松小)
副委員長
長谷川 康介
内田 麗奈 (京都教育館山小)
(北海道教育館函館小)



全国国立大学附属学校園の幼児・児童・生徒の保護者の皆様へ

2025年度
中途加入受付中

カンガルー保険のご案内

この保険は(一社)全国国立大学附属学校PTA連合会の団体保険です。

ただ今
募集中!

詳細につきましては、パンフレットをご覧ください。

団体総合生活保険 任意加入制度 24時間補償 保険期間 2025年4月1日午後4時から2026年4月1日午後4時まで1年間 ※1 随時加入いただけます。(お申込日にかかわらず、補償は2025年4月1日午後4時に終了します。) ※2 ご加入ご希望の方は取扱代理店までお問い合わせください。 加入対象者 ①全国国立大学附属学校園に在籍の幼児・児童・生徒 ②本制度にご加入いただいた上記①の兄弟で、公・私立の幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校に通われている幼児・児童・児童・生徒 (ご加入時に満3歳以上かつ満18歳以下の方に限ります。) 申込手続き パンフレット送付の「カンガルー保険 お申込み方法」チラシ記載のQRコードもしくはURLよりインターネットでお申し込みください。 ※パンフレットのご請求・ご加入のご相談につきましては、取扱代理店までお問い合わせください。	約40%割引 全国国立大学附属学校PTA連合会が窓口の団体特約であり、保険料が割増です。 団体割引(30%)・優待による割引(5%) ※本団体の保険料は10%・減額	24時間補償 お子様を取り巻く様々なリスクに対応した安心のための24時間補償です。	簡単・便利 保険料のお支払は「口座振替方式」更新のお手続き不要の「自動更新」です。
---	--	---	---

【取扱代理店】 東京海上日動火災保険株式会社
(担当課) 公費課第二課文教公費課 〒102-8014 東京都千代田区三軒明神4 TEL:03-3515-4133 2025年4月9日

全員加入制度 ※個人での加入はできません。 1 園児・児童・生徒、教職員の皆さまのケガなどを補償する 園児・児童・生徒・教職員総合補償制度 (学校契約団体傷害保険、賠償責任保険PTA特約)	2 園児・児童・生徒、教職員の皆さまの犯罪被害事故見舞補償制度 (傷害総合保険)	3 PTA活動に参加中のご両親・教職員の皆さまのケガや賠償事故を補償する PTA活動総合補償制度 (普通傷害保険PTA団体傷害特約、賠償責任保険PTA管理責任特約、生産物特約)
--	--	--

保険期間 2025年6月1日午後4時から2026年6月1日午後4時まで
 ※「カンガルー保険(全員加入制度)」は全国国立大学附属学校PTA連合会を保障契約者、損害保険ジャパン株式会社を引当保険会社とし、学校契約団体傷害保険、傷害総合保険、PTA団体傷害保険、賠償責任保険(P/A特約)、PTA管理責任特約、生産物特約)をそれぞれ組み合わせた補償制度のネットワークです。
 ※この広告掲載は概要を説明したものであります。詳細はパンフレットをご覧ください。

【取扱代理店】 損害保険ジャパン株式会社
公費課文教管理課文教課 〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 TEL:050-3808-5636 2025年5月8日

カンガルー保険・取扱代理店のお問合せ先

この広告は団体総合生活保険の概要についてご紹介したものです。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合は、取扱代理店までお問い合わせください。

〈北海道・東北・関東・北信越・四国地区〉

株式会社 第一成和事務所

東京都中央区日本橋馬喰町1-12-3
Daiva日本橋馬喰町ビル3階 ☎ 0120-100-492

〈東海・近畿・中国・九州地区〉

海上商事 株式会社

東京都渋谷区代々木2-11-15
新宿東京海上日動ビルディング ☎ 0120-745-748

全附P連特集

メディアから見た国立大学附属学校の魅力



広島大学附属高校



筑波大学附属久里浜特別支援学校

日本教育新聞社
編集局報道部長
佐原啓仁氏

今年も残すところ、あとわずかとなくなりました。10月まで本紙に掲載した記事から国立大学附属学校園の魅力に迫ってみましょう。

この支援プログラムは、ソニーの創業者、井深大さんが「子どもたちに科学を好きになってもらいたい」と願って、昭和47年に設立されたソニー教育財団(当時はソニー教育振興財団)によるものです。

同財団では、「宇宙研究所」という活動に取り組みました。ロケット発射台づくり、太陽系の再現などを通して、園児は宇宙への興味・関心を高めてきました。

2月、新潟大学附属新潟小学校を紹介しました。児童の「独創力」の育成に力を入れています。

3月、東京学芸大学附属国際中等教育学校を紹介しました。機器移植を主題とした道徳科の授業に焦点を当てた記事でした。

同校には、全国各地で「いのちの授業」を行っている教員がいます。日本臓器移植ネットワークによる映画教材の製作にも協力しました。この日の授業を担当しました。

2年生の生徒は、映画教材を視聴した上で、「自分が脳死になったらどうするか」などと記したワークシートを前に、考えを深めていきました。

4月、愛媛大学教育学部附属小学校を紹介しました。探究的な学びの中で重要なことがらを「6C」に整理し、

実践するといった取り組みがあります。「C」はチャレンジやチョイスなどの頭文字。一連の実践は、書籍として刊行されるほどのものでした。

5月、福島大学附属中学校を紹介しました。昨年始めた「教科授業づくりセミナー」の5回目、5回とも、提案授業を交えていきます。5回目には参加者から「指導が難しいので避けたい」といった声がある学習内容についての提案授業が行われました。

6月、連載企画の「共通テスト」正答率を高める授業に、神戸大学附属中等教育学校の奥村睦教諭による提案を掲載しました。

この連載企画は、大学入学共通テストの出題傾向を踏まえて、どのような授業が有効なのか、教科・科目ごとに、国公立高校の教員から提案していた

7月、東京学芸大学附属竹早中学校を紹介しました。生成AIに学習指導要領を読み込ませた学校です。生徒の学習評価に活用しています。生徒が文章で記した回答を生成AIで評価する

といった試みがあります。話し合い活動もAIで評価しました。

8月、埼玉大学教育学部附属小学校を紹介しました。水泳用プールに入る

水は何リットルか。この問いかけに5年生の児童が挑みました。

プールへと移動し、長さや幅、深さを測定した児童。掛け算をすれば、何

リットル入るか概ね分かるのですが、プールの底は水平でないことに意識

を向け、計算方法を考えました。自ら学び、問題を見出す子どもの育成を口

指した実践でした。

9月、筑波大学附属久里浜特別支援学校と大阪教育大学附属平野小学校を

紹介しました。

久里浜特別支援学校のサマーキャン

プでは、自閉症の児童と筑波大学の学

生が交流しました。大阪教育大学附属

小学校では、全国国立大学附属学校PTA連合会と財務省が連携して開発し

た財政教育プログラムの研究授業があり

ました。この研究授業はコロナ禍を

はさんで6年ぶりの実施となりました。

10月、特別支援教育を受ける子ども

たちの様子を描く連載企画は筑波大学

附属久里浜特別支援学校の教員が綴り

ました。大人の男性に対する拒絶反応

がある女子児童に男性教員はどう対応

したのか。貴重な経験を披露していた

だいています。

◆

力ある教員の活躍、他の学校の教

員が学ぶ場の提供、園児・児童・生徒

の先進的な学び、大学との連携など、

附属学校園ならではの特色が見えてき

ます。他にも今年は国立大学附属学校

園に関する記事はいくつも掲載しまし

た。

取材した記者からは、「時代の流れ

に合わせ、保護者や地域を巻き込んだ、

新たな試みをしている学校も増えてい

る」「公開研究会などを通じて地域の

拠点として教育実践を広めていく場になっ

てきている」「授業を成立させるために

に多くの準備や研究がなされており、

結果として、生徒の知的好奇心を刺激

し、学びに向かう意欲を高めている」と

といった意見がありました。

一方で、「みんなができて楽しいカリ

キュラム」をたくさん開発してくれ

ると日本全体の教育の質が上がると思

じる」との指摘もあります。

引き続き、日本教育新聞は国立学校

附属学校園についての情報を発信し、

教育界に貢献してまいります。

教育界と共に歩んで創刊79周年
日本最大の教育専門全国紙

日本教育新聞

全附P連 連載記念!

◎全国国立大学附属学校PTA連合会の連載を毎月1回掲載 (2025年5月19日)



◎国立大学附属学校応援キャンペーン

「日本教育対話」の購読(新規1年以上)で令和6年「日本教育新聞副読本」をプレゼント!

教育というものを知ってもらうために 一般社団法人 全国国立大学附属学校PTA連合会 会長 齊藤 昌樹

この国の未来を担う子どもたちの教育は今どうなっているのか、また教育の現場では何が起きているのかを知ることは非常に重要であると感じています。それはわが子を見る保護者目線だけでなく、国の教育に対する政策や教育現場で働く教員にスポットを当てた情報が必要不可欠であるからです。「教育は国家百年の大計」であることを保護者と学校が共有し、いじめ問題や教員不足といった教育界が直面する諸課題を一括に考えていくことができることを祈念いたします。



お申し込み ◆教育現場の必須アイテム! 国立大学附属学校園で求める教育情報が毎週届きます。是非ともこの機会にご購読ください。

【必要事項】 学校名(ご担当者)、ご連絡先(郵便番号、住所、電話番号、FAX)、支払書類(見積書、納品書、請求書)、日本教育新聞の開始月、ご購読期間をお知らせください。

☎0120-43-3746 受付後、折り返しご連絡させていただきます。弊社ホームページの「お問い合わせ」-「お問い合わせ内容」からもお申し込みができます(要必要事項)。

※新規でご購読の国立大学附属学校が対象になります。個人のお客様は24時間ホームページからお申し込みができます(国立大学附属学校のキャンペーンとは別になります)。

N 日本教育新聞社

〒108-8638 東京都港区白金台3-2-10 ■発行:毎週月曜(月4回、年45回、合併月有) ■ご購読料:月額2,500円(税込2,750円)、年額30,000円(税込33,000円)

